

帯広市立翔陽中学校 学校だより 特別号⑤（教育活動報告の具体）



《学校教育目標》 豊かな心で たくましく 意欲をもって 希望(ゆめ)を叶えよ 《今年度スローガン》 揺るぎない翔陽プライドの確立

令和8年1月19日（月）

帯広市立翔陽中学校

校長 大泉 昭人

TEL 24-3121

ホームページはこちら →



翔陽中HP

1. 安全教育の取組

<はじめに> 安全確保のために必要な知識・行動を理解し、生命尊重や安全な生活を送る基礎を培い、安全で安心な社会づくりに貢献できるようにすることを目的に以下の取組を進めてきました。

<取組>



(1) 登校指導 <4/8-10>

年度始め、本校職員で校舎北側・北西側・南側及び通学生徒の多い道路の交差点や横断箇所で交通指導を行いました。(地域の方には毎日見守っていただいている)



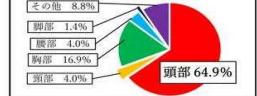
(2) 自転車通学生集会 <4/11>

自転車通学生保護者会と連携して、今年度よりヘルメット着用となりました。自転車通学生には集会を通して利用の約束を確認し、後日、部活動集会の中でも同様の指導を行いました。



(3) 交通安全教室 <1・2年5/21>

帯広警察署より講師を招き、主に全国的に事故の多い自転車の使用についての指導を実施しました。



(4) 避難訓練 <4/25・9/5>

様々な状況下で、避難経路や危険を予測し、回避する行動、地域の一員としての役割を確認しました。



(5) 防犯教室 <2年6/23>

道警より講師を招き、闇バイトなどの犯罪や、いじめが及ぼす影響について学習しました。特に今回は、いじめで子を亡くした母親の手紙動画が紹介され、生徒たちは真剣な表情で重く受け止めていました。



(6) 防災学習 <1年12/8>

市役所より講師を招き、危険の予測や備えの大切さを学習しました。簡易担架による救護や簡易トイレの処理を体験し、避難所における役割について考えを深めました。(平成28年の豪雨の際、翔陽生が避難所で活躍したこと大切にしたいです)



(7) 薬物乱用防止教室 <3月>

講師を招いて、3年生を対象に薬物の恐ろしさや、忍び寄る誘惑から自身を守るための学習をします。

<本校の特色として>

(8) NET利用安全教室 「被害者にも加害者にもならない」

NET利用の利便性とリスクについて、具体例を示しながら、様々な場面で考える機会を設定してきました。



① 携帯・スマホ安全教室 <12/1>

外部の専門職員を講師に、情報リテラシーを身につけ、情報を安全に賢く扱うにはどうしたらいいのか、実例をもとに考える学習を行いました。

② 情報モラル教室

道徳の授業でも情報モラルや適切な使用について考える学習を行いました。

(9) いのちの学習 「自分を守り・相手を守り・命を守る」

「多様な性、思春期の心と体」への理解を通して、「いのちの尊さ、責任」について深く考える機会としました。



① 1年「多様な性」の学習 <12/9㈰>

「性の多様性」、「当事者の悩み」について学習しました。多様性を認め合うこと、人権の大切さ、悩んでいる人に自分ができることについて考える姿が見られました。

② 2年「対等な関係」の学習 <7/11講師>

「いやな思いをなくす方法」、「データDV等の性暴力」について学習しました。いやな思いや性暴力をなくすにはどうしたらいいかを真剣に考える姿が見られました。

③ 3年「生と性」の学習 <12/11助産師>

「いのちの誕生の奇跡」、「思春期の心と体」、「望まない妊娠や性感染症と避妊」について学習しました。命の尊さ、性感染症の実態、命の責任について考える姿が見られました。

④ 全学年「SOSの出し方」の学習

「ストレスの対処法」、「困ったときの解決方法」について学習しました。SOSの出し方、悩んでいる人へのサポートについて考えを深めました。

⑤ 相談窓口の案内

翔陽中ガイドに掲載している相談窓口の他に、毎朝行っている「心の健康アプリ」、「翔陽版お悩みポスト」についても授業でお話しました。

⑥ 「いのちの授業」<10/2「夜回り先生」水谷修氏>

「夜回り先生」を講師に、「どこまでも生きぬいて」と題して講話を実施。心が揺さぶられ、生きる意味を深く考える貴重な時間になりました。

<成 果> 自他を尊重し、思いやりのある生徒へ (目指す生徒像3)

- 学習を通して、「今だけ、自分だけ」ではなく、「これからも、みんなも」幸せに生活するために、「自分にできることは何だろう」と考えている感想が多く寄せられていました。
- また、困ったときには相談することが大切で、困っている人の力になろうとする生徒も多くいました。
- ※ 今後も、さらに工夫しながら取組を継続していきたい。

<教育活動報告の具体>

「翔陽」(特別号④)では、学校教育目標の達成に向けて、知・徳・体を
一体で育む教育活動の報告「概要」を紹介しましたが、本紙では「具体」を紹介します。

①安全指導の取組 (p1)

②学力向上の取組 (p2~3)

③体力向上の取組 (p4)

④豊かな心を育む取組 (p5~6)

⑤小中連携(学びをつなぐ) (p7~8)

2. 学力向上を目指して

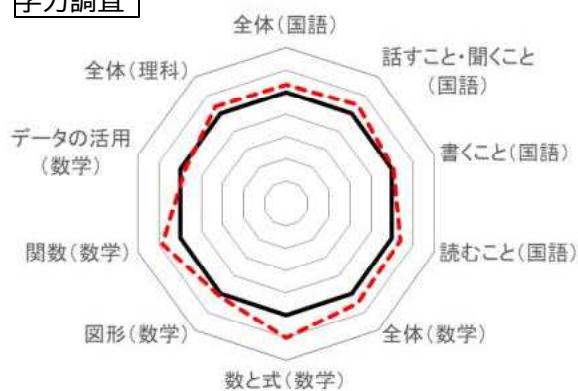
主体的に学ぶ生徒

<全国学力・学習状況調査>



令和7年4月に実施し
た結果は以下の通りです。

学力調査



国語

平均正答率が全国平均を上回っている。

- 自分の考えが伝わるように表現を工夫できる。
- 登場人物の設定の仕方を捉えることができる。
- ▲ 読み手の立場に立って、文章を整えることができる。
- ▲ 根拠を明確にして記述することができる。

数学

平均正答率が全国平均を上回っている。

- 必ず起こる事柄の確率について理解している。
- グラフから必要な情報を読み取ることができる。
- ▲ 式の意味を読み取り、数学的な表現で説明できる。
- ▲ 相対度数の意味を理解している。

理科

平均正答率が全国平均を上回っている。

- 加熱実験の操作に関する技能が身についている。
- 情報収集についての知識・技能が身についている。
- ▲ ポーリング調査から地層の広がりを表現できる。
- ▲ 仮説を立て、実証実験を計画することができる。

生徒質問

○…全国を大きく上回る ▲…下回る

- 自分にはよいところがある。
- 先生は分かるまで教えてくれる。
- ▲ 平日、学校以外で1時間以上学習している。
- ▲ 自分で学び方を考え、工夫することができる。

生徒質問

結果を分析して

①経年変化より

- ・現中3を10年前の本校中3と比較すると、家庭学習時間が大きく減少し、学習以外のスクリーンタイムが大きく増加した。
(家庭で過ごす時間:学習→スマホ等視聴へ)
- ・現中3を小6時と比較すると、3教科とも正答率が全国より高く、その差は大きくなつた。

②クロス集計より

- ・学校以外で1時間以上学習している生徒は、正答数が高い傾向。
- ・困った時に大人に相談できると回答した生徒は、正答数が高い傾向。

③ウェルビーイングに関する質問(自己肯定感など)より

- ・14項目中9項目で、全国平均を上回っている。

— 全国(R7) — 翔陽中(R7)

改善の方策

主に以下の取組を実施しています

①学習内容を着実に定着させる取組をしています

- ・反復による基礎基本の定着
- ・家庭学習の取り組み方指導
- ・学び直しと発展的学習の実施

②説明したり考えを表現したりする活動を行っています

- ・作文の書き方指導
- ・場面に応じた表現の指導
- ・分かったことや過程を言葉でまとめる場の設定

③生徒指導の視点※を生かした学習スタイルで臨んでいます

- ・生徒指導の視点をいかした教育活動を通して、個別最適な学びと協働的な学びに取り組む環境づくり

④実効性を高める取組をしています

- ・授業アンケート等を活用した短いスパンでの見直し
- ・校内研修や各種研修の活用

※ 生徒指導の視点

- ①自己存在感の感受
- ②共感的な人間関係の育成
- ③自己決定の場の提供
- ④安全・安心な風土の醸成

<取組> (1) 指導工夫で学びの充実へ



朝読書

① 朝読書

「朝読書」を朝の会の前に行い、読書の習慣化、落ち着いた日常の定着につながりました。



授業でのICT活用

② ICTの活用

大型モニターや、1人1台端末の活用により、個々の習熟度や興味に応じた学習を充実させるなど、効果的な指導工夫を進めてきました。



放課後の学習会

③ はばたき学習クラブ

【放課後版】<6/9-11>

前期中間テスト前の3日間、放課後に実施しました。生徒は教員に質問しながら熱心に学習していました。(80名以上参加)

【塾講師版】<9~10月>

地域ボランティア(塾講師)が、3年生希望者を対象に5日間、放課後に受験勉強のサポートを行いました。(数理・英 75名参加)

【夏・冬休み版】

夏休みに6日間(7/24-25-28, 8/19-21, 184名参加)・冬休みに3日間(12/24-26, 74名参加)、小中教員・高校生・畜大生の協力のもと実施しました。生徒たちは宿題や課題、eライブラリ等に取り組みました。



塾講師による学習会



夏・冬休み学習会



お花教室



実験教室



実験教室



ブタ眼球解剖

見え方実験



折り紙建築

岩石標本



人工授精

箸づくり



ワシ生殖器解剖

マイ箸

<成 果> 主体的に学び、向上心のある生徒へ(目指す生徒像1)

- ボランティア等のサポートにより学習会や実験教室等が充実し、補充的学習や発展的学習の機会が増え、参加者も増えました。

※ 今後も、さらに工夫しながら取組を継続していきたい。

(2) キャリア教育の充実へ

将来「自立し、幸せな人生を切り拓く」ための能力や心を培うための取組を行います。詳しくは、p6 「将来の自分の姿を考えるための取組」で紹介しています。

(3) よりよい授業を目指して

研究テーマ「学習指導と生徒指導の一体化」～生徒指導の視点を生かした授業づくり～により、生徒の自己指導能力の向上をめざして、計画的に校内研修(教員や関係者による授業参観や協議)を行っています。



「授業づくり」研修



「授業づくり」研修



研究授業



授業後の研究協議



エリア公開研(研究協議)

「わかる・活躍の場がある授業づくり」

① 校内研究

【全体研修】生徒指導の視点を生かした授業づくり(4/4)、アセス等を活用した生徒理解と学習者主体の授業づくり(6/23.8/26.1/8)

【授業研修】ミニ授業研(7~11月)、指導主事を招いて全学年の研究授業と協議(11/11)

【書面研修】各種資料を活用し、理論や事例に照らした授業づくり(避)

② エリア研修(本校・帯小・柏小・東小)

【プロジェクトチーム】翔陽中エリアで学習状況等を交流し、エリアとして「書くこと」を重点とした取組を各校で進めています。

【エリア公開研】東小を会場にエリアの全教員が参加して授業参観と研究協議を行いました。(11/14)

③ 授業アンケート <下枠は6月→12月>

生徒の学習状況等の把握と変容を見るために定期的に実施しています。その他の調査やテスト結果の分析も行い、短いスパンで成果や手立てを検討、実施してきました。

1. 授業の内容がわかる(5教科平均)

※学校独自のアンケート結果より

2. 自分の考えが伝わるよう根拠を示して書いている

全校: 68% → 70% (6月→12月、学年が上がるほど大きく上昇している)

3. 平日の家庭学習(1時間以上)

全校: 54% → 59% (6月→12月、特に3年生は20%近く上昇している)

(4) 学習習慣の定着を目指して



家庭学習用教材を自由に使えます



学習の振り返り



大人向け学習会



子育て講話

① 家庭学習の推進

春より「家庭学習の手引き」を使って取り組み方を指導し、宿題や課題以外に自学ノートなどを活用して習慣化を目指してきました。また、生徒会学習委員会の作成した学習プリントや呼びかけ、先生からの励まし・助言を受け、工夫しながら粘り強く取り組む生徒が少しずつ増えてきました。

② 自らの取組への振り返り

テスト計画表の振り返りや教育相談(6/11.10/22-31)により、多くの生徒がスケジュール管理や学習への取り組み方を見直し、調整しようとしていました。また、将来を見据え、行動に責任や覚悟をもつようになりました。

③ 家庭との連携

「勉強法や進路情報」(畜大鍊成会塾長)、「高校の諸費」(本校教員)、「子育て」(森氏)をテーマに「大人向け学習会」を実施しました。また、懇談会や通信等を通して家庭と一緒に環境づくりを進めてまいりました。

<成 果> 主体的に学び、向上心のある生徒へ(目指す生徒像1)

- 授業づくりとアンケートの活用により、効果的な取組の改善につながり、生徒の向上心は高まっています。

※ 今後も、さらに工夫しながら取組を継続していきたい。

<成 果> 主体的に学び、向上心のある生徒へ(目指す生徒像1)

- 授業づくりとアンケートの活用により、効果的な取組の改善につながり、生徒の向上心は高まっています。
- また、キャリア教育の視点での教育活動や教育相談により、生徒は将来を見据え、主体的な取組へと変化してきました。

※ 今後も、さらに工夫しながら取組を継続していきたい。

3. 体力向上を目指して

たくましい生徒

〈全国体力・運動能力・運動習慣等調査〉

昨年度（令和6年度）の結果は、

- 男女共に、柔軟性・跳躍能力が高い。
- △ 男女共に、敏捷性に課題が見られた。
- 体育の授業で、「記録に挑戦した」「友達と協力した」「できるようになった」と答えた生徒の割合は全国を上回った。また、ICTを活用して「できるようになった」と答えた生徒の割合は、全国を大きく上回った。
- 「運動が好き」、「朝食を毎日食べている」、「毎日7時間以上寝ている」生徒の割合は全国を上回った。（生徒質問紙より）

〈取組〉



(1) 体育授業の工夫

- ・効率的な体の使い方の指導や、基礎的な筋力を向上させる運動を取り入れ、運動量を確保した授業展開を行っています。
- ・教え合いやICT活用等で、できる喜びを感じる授業を目指しています。

(2) 対抗戦「Sリーグ」の実施

- ・球技大会（Sリーグ）や、体育祭等の体育的行事を実施しています。

<Sリーグ種目>

〔ハンドボール・バスケットボール・ソフトボール
フットサル・バレーボール・アイスホッケー〕

生徒は様々な種目の特性や楽しさを味わい、対抗戦を通して仲間意識を高めています。

(3) 日常的に運動に親しむ機会の設定

- ・昼休みに体育館開放を実施し、生徒会保育委員会が中心となって運営しています。生徒たちは、この時間に楽しく汗を流しています。
- ・また、部活動等で日々汗を流している生徒がたくさんいます。

(4) 感染対策と教育活動

- ・感染症等の状況を注視し、その都度、市教委の指導・助言のもと教育活動を進めています。

(5) 望ましい生活習慣の定着

【食育指導】食育指導員を講師に招き、「食の大切さ」について学習しています。ふるさと十勝帯広の食材についての知識や、食を含む生活習慣が健康や成長に与える影響などについて学んでいます。

【食育通信】給食だよりとともに活用した食育に関する情報発信をしています。

【調理実習】家庭科で実施し、「食の大切さ」について学習しています。

【教育相談等】計画表を活用した生徒との面談を通して、望ましい生活習慣について、個別に相談しています。

【その他】保健での学習や部活動指導等を通じて、栄養・休養・運動の大切さを伝え、保護者にご協力をいただいています。

(6) 小学校との連携

【出前授業】本校の体育教師がアリア小学校に赴き、体育専科教師と合同で実施。効率的な体の動かし方や体力づくりを小学校と連携して行いました。

【合同体育】近隣小学校に本校生徒が赴いて実施。生徒にとっては教えることで理解が深まり、児童にとってはマンツーマンで個別に学ぶことができました。

【今年度の状況】新体力テストより（6月の2年生）

種目	体力要素	男子	女子
握力	筋力	-	△
上体起こし	筋パワー・筋持久力	○	○
長座体前屈	柔軟性	○	○
反復横とび	敏捷性	-	△
20mシャトルラン	全身持久力	△	-
50m走	疾走能力	△	△
立ち幅とび	筋パワー・跳躍能力	-	○
ハンドボール投げ	巧緻性・投球能力	-	○

※ R6の全国平均より高い(○)、同程度(一)、低い(△)

- 男女共通で筋持久力・柔軟性が高い。また、女子は跳躍能力・投球能力が高い。
- △ 男女共通で疾走能力に課題が見られた。また、男子は全身持久力、女子は筋力・敏捷性に課題が見られた。
- 男子は運動をする・みる・支える（サポート）ことに興味をもっている生徒が多い。また、女子は運動を知る（聞く・調べる）・つながりや一体感を感じることに興味をもっている生徒が多い。

【生徒の変容とその後の取組について】

※ 同一年度（現2年生が1年生の時）の比較では、男女共に体格も体力も向上していました。

令和6年度の結果にもあるように、運動への関心が高く、継続してきた取組(1)～(6)の成果と考えています。

引き続き、取組を継続・充実させると共に、ケガ防止やパフォーマンス向上に不可欠な柔軟性の高さを生かして、各能力をバランスよく高めていけるよう体育授業の中で指導しています。

〈成 果〉 何事にも挑戦し、やり抜く生徒へ（目指す生徒像2）

- 体育の振り返りや行事の感想等を見ると、「楽しい」と感じている生徒が多い。目的をもって授業や行事に臨み、教え合ったり、協力したりして、達成感を得ていると考えています。
- 「朝食はほぼ毎日食べている」と答えた生徒の割合は93%以上（食育アンケート）にのぼり、保健体育や食育指導等を通して、健康についての意識が高まっていると考えています。

※ 今後も、さらに工夫しながら取組を継続していきます。

※ R7全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、後日報告します。